

ローズグラスの出穂動向と採種性について

樋高二郎・持留信雄・澤井 晃¹⁾・長谷 健・立山義夫²⁾

(鹿児島県農業試験場大隅支場・¹⁾九州沖縄農業研究センター・²⁾徳之島農業改良普及センター)

Jiro Tetaka, Nobuo Motidome, Akira Sawai, Takeshi Nagatani and Yoshio Tateyama :
The Relationship between Heading and Seed Production of Rhodesgrass

ローズグラスは出穂にばらつきがあり、脱粒しやすい等の理由で採種量が少なく種子が高価となっている。またアカスジカスミカメムシ等の被害により採種量の低下もみられている。そこで①出穂動向と採種適期の関連②採種時期の晩限③出穂時期による形態的特徴④アカスジカスミカメムシの防除効果について調査を行った。

1. 材料および方法

- 1) 試験年次：2000年, 2001年
- 2) 試験場所：鹿児島県農業試験場大隅支場
- 3) 供試品種：カタンボラ, アサツユ, 大隅12号
- 4) 播種日および刈り取り処理の有無
2000年 6月15日播種 刈取処理なし
2001年 7月10日播種 8月21日刈取処理
- 5) 殺虫剤処理 (トレボン乳剤1000倍液)
2000年 8月21日, 9月1日, 9月19日
2001年 9月17日, 10月12日
- 6) 播種量：50g / 10a
- 7) 試験区：条長2.5m * 条間1.5m の 2 条播 = 7.5m² の 3 区制
- 8) 施肥量 (kg / 10a)：堆肥2000・苦土石灰100 N 5 P₂O₅ 5 K₂O₅
- 9) 調査項目と基準：

出穂数 各年 1 週間おきにマーキング調査
2000年 8月25日～11月2日 (計11回)
2001年 9月14日～11月16日 (計10回)

粗選種子重 各年 1 週間おきに採種調査
2000年 9月14日～12月19日 (計12回)
2001年 10月26日～12月20日 (計 9 回)

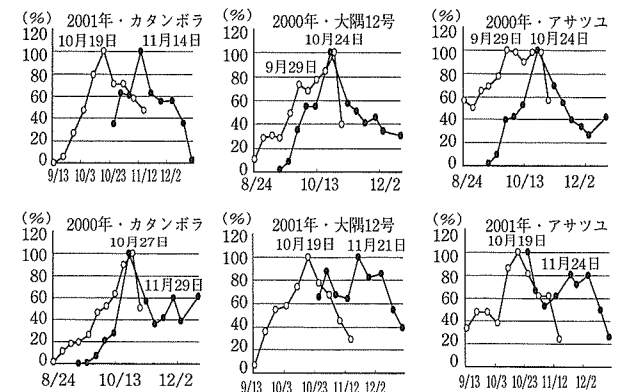
精選種子重 種子自動精選機(本山製作所)による風選
稔実率 = 精選種子重 / 粗選種子重
穂長, 枝梗数
千粒重 (2001年のみ調査)

2. 結果および考察

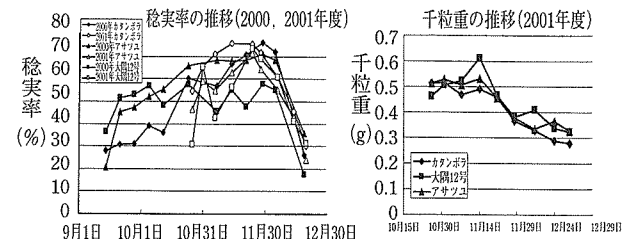
- 1) 出穂動向と採種適期の関連
多少のずれはあるが3品種とも2000年, 2001年の出穂茎数の最盛期は9月下旬～10月下旬にあり, その約30日後に精選種子重の最盛期を迎えた (第1図)。
- 2) 採種時期の晩限
稔実率は3品種とも2000年, 2001年の11月までは70%前後の値を示したが, 12月に入ると急激に稔実率が低下した (第2図)。また千粒重については2001年のみの調査であるが, 3品種とも11月中旬以降になると低下した (第2図)。以上のことより大隅支場において稔実率が高い種子を得る時期は11月中旬までと考えられる。
- 3) 出穂時期による形態的特徴
枝梗数・穂長は3品種とも2000年, 2001年で出穂初期のもの程大きい値を示した (第3図)。

- 4) カスミカメムシの防除による効果
アカスジカスミカメムシに対し殺虫剤処理を行うことで, 3品種とも2000年, 2001年の精選種子重は無防除区100に対し131～183の比率を示し, また稔実率は100に対し110～123の値を示した (第4図)。

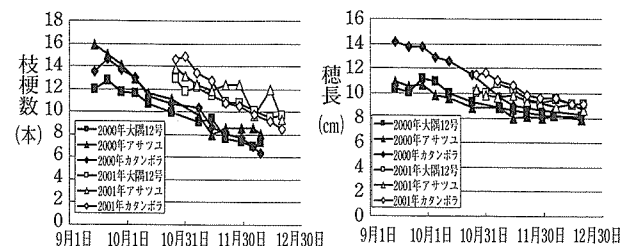
以上のことより, アカスジカスミカメムシの防除により採種量の増加, 稔実率が高くなり防除効果が認められた。



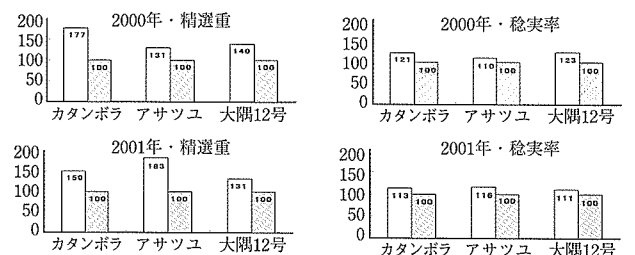
第1図 出穂数と精選種子重の推移
注) ○：出穂数, ●：精選種子重, Y軸の100%はピーク時を示す。



第2図 稔実率の推移・千粒重の推移



第3図 枝梗数・穂長の推移 (2000年度・2001年度)



第4図 アカスジカスミカメムシの防除による効果 (無防除区を100とした場合の比率)